

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R7. 6. 27

発行ナンバー 1192号

安全・健康

野球部、合宿所に宿泊します。

先生方にそんな連絡をしたところ、養護の先生がさりげなく私の所に（持ち運びのできる）AEDを置いていってくれました。

実は先日、他校野球部で練習中、このAEDを使用したという話を聞いていたのです。それもボールが当たったとかではなく、ベースランニング中に突然倒れて・・・というもの。顧問先生方や他部員の迅速な対応で事なきを得たそうですが、改めて安全の大切さについて認識、確認しました。

また、こんな話も・・・

同期で同い年の教員が（野球が専門の教員ではありません）心筋梗塞で倒れたというのです。専門種目の審判をしている最中苦しくなり、気付いたら倒れてしまっていたとのことでした。普段私なんかよりよっぽど健康面に気を使っているタイプなのに・・・同い年なだけに私もショックを受けました。彼も周りにいた他教員や生徒の迅速な対応で命に別状ありませんでした。・・・が、緊急搬送された病院に心筋梗塞の手術が出来る医者がたまたまいた幸運、その手術をするのが30分遅かったら助からなかったらしい・・・そんな話をしました。

どちらの件も（人の生死が関係する）厳しい出来事だったと思いますが、周囲にいた人の冷静な対応で、そのピンチを乗り切っています。

今年の夏も暑さが尋常ではなさそうです。その暑さが安全面や健康面に悪影響を及ぼさない活動を心がけなければなりません。

顧問としての冷静な対応、また、私自身がぶっ倒れないよう体調管理をしっかりしたいと思います。

見習うべき対応

皆さん、大リーグのこのシーンをご覧になりましたか？首位を争うドジャース対パドレス戦、これがお互い主力選手にデッドボールをぶつけ合う報復合戦に・・・その矛先は当然ドジャースの主力である大谷選手にも向けられ、彼も背中へデッドボールを喰らいました。

大谷選手の対応次第では大乱闘にも発展しかねないこのシーン、しかし大谷選手はベンチに大丈夫だということをジェスチャーで伝えると、涼しい感じで1塁ベースへと歩いていったのです。

自分もデッドボールをぶつけられるのでは？しかしそうなくても絶対に「怒り」という表現は使わない、そう「準備」していたとしか思えない対応でした。いや、素晴らしいを超えて素晴らしいすぎる。狙ってぶつけられたのを把握しながら冷静な対応ができる・・・なかなかできることではありません。結局、大谷選手のこの振る舞いが報復合戦を終了させました。

日々の生活で、のちのち反省や後悔につながってしまうのは（事が起きた時に）瞬間的に（カッと成って）言い返したり行動したりした時なのです。この日の大谷選手のように冷静な対応ができれば、ケガ人等を出すことなく平和的に解決することができます（野球だけではありません。大谷選手のようなタイプの人が国の大統領になれば戦争などもなくなるのではないでしょうか・・・本気でそう思います）。

学ぶ＝真似ぶ・・・

頑張ってみたいと思います。

世界も野球も・・・平和でありたいものです。